

2022年3月31日

ロシアのウクライナ侵攻について思うこと

NEANET 副会長
三橋 郁雄

ロシアが突如ウクライナに侵攻した。まさか出来まい、と考えていたが10万の軍隊がウクライナに進軍し、首都キエフの陥落を狙う。ウクライナを何とか守らなければ世界の民主主義が死んでしまう、と深刻に思うようになった。

過去にアフガニスタン侵略をし、10年間の現地ゲリラとの闘争が続き、結果としてアフガニスタンを自国化できず撤退、経済が疲弊化し、数年後のソ連の崩壊につながっていった。その苦悩の過程をよく知っているにもかかわらず、またまるで19世紀の帝国主義の様にいとも簡単に隣国の意向を全く無視して、言うことを聞け、さもなければ力づくでノックダウンさせる、恐ろしい国である。しかし考えてみると、日本の満州帝国創設もこれと同じであった。日本の場合は、陸軍による暴走を止められなかったことによるが、それに引きづられた日本国民の武力こそ正義との考えが背景にあったことによる。

しかし、現在の我々は民主主義こそ最良、世界とは相互依存を深め経済を豊かにすることが生きていくための最良の手段と考えるようになっているが、この考えも今回の事変を見ると、常に戦争を覚悟しながら維持していくことが必要であることを再認識させられた。

今回の事変の主因は、2014年のクリミア半島の自国領土化による欧米の経済制裁であり、世界経済の進展に追随できず、このため益々独裁化を進め、結果として国内統治の腐敗と深刻な経済衰亡が起こったことである。これらから国民の目をそらすため、プーチンが国内の不満解消のため実行したのである。

今後は、ウクライナは、アフガニスタンのように、ロシアに支配されるも欧米の支援を受けてゲリラ化、泥沼化するのではないか。

ロシアがここで勝利するようなことがあってはならない、世界に類似の事変が起こることにつながる。泥沼化すればロシア経済はさらに貧困化し現体制は内部から崩壊しようが、日本にも多大な影響がもたらされる。

まずはウクライナがその昔の日本が原爆により民族の全滅のおそれを感じ、無条件降伏した、屈服した、のと同じ道をたどることの無いよう祈るしかない。

それを防ぐには民主主義国の結束が重要である。

次にロシア国民も世界から見放されれば、自国の経済がますます衰亡していくことを知るべきである。

中国が共産党独裁のもと漁夫の利を得る。中国の存在がますます世界平和に大きく影響を与える。中国には最良の作戦は戦わないで勝利すること、がある。基本的に世界最強の軍隊をもって威圧してくる可能性がある。これに対抗するには民主主義国が強い同盟で結ばれ軍事力でも負けない体制をとることが必要になる。その相互牽制の過程で勝敗を握るのは国内の統治方式である。民主主義は選挙を通じて国民の不満解消に対応できるが、独裁国家は選挙が機能せず次第に内部統治が個人崇拜に向かい、社会制度が腐敗で機能しなくな

る。

中国は歴史的に様々な意見が存在する中、既存の権力が次第に変化していく歴史がある。改革開放がいい例だ。就いては中国は次第に民主主義国化していくのではないか。当方が考える解決策である。

以上